

脂肪酸誘導体に関する研究 (第3報)

「イタドリ」の酸味成分¹⁾

塚本長太郎 山 川 寛

Studies on Fatty Acid Derivatives. III Acid Component of Polygonum Reynoutria Makino.

Tyo-taro Tukamoto and Hiroshi Yamakawa

イタドリ Polygonum Reynoutria Makino の
嫩茎は相当の酸味成分を有するが、未だ此の酸
味成分に就いては研究されてゐない。著者等は
石川県津幡町附近で採集したイタドリの嫩茎
300g を5% HCl 約 500cc と水浴上で4時間
加温後濾過し濾液を Na₂CO₃ 液で中和、之に
鉛糖水を加へ生じた沈澱を吸引濾過水洗後、水
に浮遊せしめ H₂S を通じて脱鉛した。

硫化鉛を濾過し濾液は水浴上蒸発乾固すると
油状の残渣を得るから冷味エーテルで処理し
エーテルに移溶した物質は溶媒を溜去すると割
合綺麗な結晶性物質として得られる。少量の水
に溶解して硫酸のエキソカートル中放置すると
Fp 100° の白色柱状晶を析出する。蓚酸と混融
して Fp 降下せず、結晶水を含んだ蓚酸である
ことがわかつた。

此の実験は HCl で抽出してゐるから全部の
蓚酸が遊離の酸として存在するのか、又は塩類
の形で存在するのか不明である。そこで著者等
はイタドリ嫩茎を8時間水浴上で温浸した。浸
液は水浴上で蒸発し27g のエキスを得た。之を
ソックスレット浸出器に容れエーテル浸出する
こと約30時間でエーテル不溶性残渣 17g を得
る。エーテル移溶性物質は褐色油状物であるが
酸性を有し之を鉛塩として精製して約 1g の蓚
酸を得たから蓚酸は一部遊離の形で一部は塩類
の形で含まれてゐるものと思はれる。エーテル
不溶性残渣の研究を続行すべきであるが、著者
の一人(塚本) 応召のため一先づ研究を中止す
る。

(昭和18年9月15日受理)

1) 薬学雑誌, 64, 131 発表.